

生涯学べ

22 玉川の丘は生涯にわたる学習の場。通信教育部での学びが今に生かされています。

古民家の空間を 愉しむギャラリー

勝俣ゆき子

Yukiko Katsumata

アートコーディネーター

神奈川県秦野市出身。2008年通信教育部で学芸員資格取得。2010年4月「蔵のギャラリー和倶楽」、10月に「gallery園」をオープン



芸員資格を取得。もともと日本の古美術も好きだったので、古物商で浮世絵の企画販売に携わり、その後は銀座の出版社画廊で現代アートを中心とする展示を任せられました。そうした経験が後に独立し、ギャラリーを運営する道につながったのです。



2011

新潟県十日町市で受け継がれる「からむし織」の展覧会。天然素材の苧麻から作られた繊維を素材とした着物、お茶、飴なども販売した

美

術に関わるきっかけは、カナダ留学にありました。旅行会社に勤務後、ロッキーマウンテンのバンフで暮らし、そこで出会ったネイティブ・カナディアン（カナダ人）の絵画に感動しました。先住民として迫害された歴史を経て、今なお自然信仰に根ざした文化を守り続ける彼らのアートに魅かれ、日本で伝えたいと思ったのです。帰国後、玉川の通信教育部で学

さらに建築家に「良い一軒家がある」と勧められたのが、文京区にある築80年の日本家屋でした。和洋折衷のモダンな趣向が凝らされ、造りも良かったけれど、ひどい荒れようで最初はお断りしたほど。それでも改修から運営まで協力してくれる友人たちに支えられ、2010年10月に「ギャラリー園」をオープン。「園」という名には、

“ 伝統文化を
守り続けるためには、
新しい感性も
磨き続けることが大切 ”

生活の中で四季を感じ、美意識を取り入れ、そこで様々な「縁」が紡がれ、人が集う「園」になればという願いを込めました。昔ながらの暮らしが見える家で、生活に息づく美を愉しんでほしい。そんな思いで展示や教室を企画していた矢先、東日本大震災に見舞われ、しばらく自粛モードに。お客さまは途絶え、一時は挫折しそうになりましたが、益子や笠間で被災した陶芸家に連絡すると、「大丈夫じゃないけど、がんばります！」

と。私もがんばろうと思い、護国寺での骨董市で陶芸家の作品を展示し、売り上げを還元しました。その年の7月には被災地を撮り続けるカメラマンの安藤毅さんの写真展を開催。震災を機に人のつながりも広がり、伝統工芸を残すために何とかしたいという人たちが集まるようになったのです。母方の実家も能登で4代続く輪島塗の塗師屋なので、その作品を扱ったり、伝統工芸の着物や漆器の展覧会をしたり。若い女性の薩摩琵琶演奏家、榎本百香さんの演奏会も開催し、応援しています。

2012

アニメ「モノノ怪」にアートをかけたインディーズイベント「園遊会」の展覧会にて。アバンギャルド茶会時の茶人、作家たちと



2013

震災後、ホテル龍名館東京の支配人と、アートを広げ、東京を元気にしたいと始まった「ポストカードアワード」で企画を担当



gallery園

戦前の日本建築を改修したギャラリー。純和風の8畳、3畳、3畳続き間を展示スペースとし、網代天井が美しい洋間の常設スペースでは、陶芸、輪島塗、手ぬぐいなどの工芸品を販売している。いけばな、ヨガ教室、英会話、薩摩琵琶演奏会などを開催。演劇、地唄舞、利き酒のほか、「和に遊ぶ」をテーマに書道や伝統工芸のワークショップ、現代アート作家らによるトークイベントなども開催している。震災後は復興支援として「1,000人で千羽鶴を折る」という取り組みを続け、一人で一羽の鶴を送ってもらいたいと募集している。



東京都文京区大塚5-36-2 tel 03-6324-8389 (金土日)
http://7thwave.info/gallery-en/

写真=菱田諭士

古民家の空間を愉しんでくださる人たちも増え、落語や利き酒、地唄舞、能、歌舞伎、浄瑠璃などの講座も好評です。また、2012年から1年間、ホテル龍名館東京にて、パブリックスペースでのアート展開に取り組み、古民家とは違う新たな挑戦もしました。

伝統文化を守り続けるためには、新しいものを創り出して人に発信していかなければならない。こうあるべきと捉われず、現代の感性も生かして何ができるかを考える。それが伝統を受け継ぐことにつながると思うのです。